太田博也半世紀名作選 1

黒い野原の赤い幻

太田博也半世紀名作選 1
黒い野原の赤い幻

定価——一、四〇〇円
昭和五十九年十一月十五日　印刷
昭和五十九年十一月二十日　発行
著者——太田博也
発行者——伊藤太文
発行所——株式会社　叢文社
東京都千代田区猿楽町一-四-五　久松ビル
電話・〇三(二九五)〇一五九　振替・東京九-四二七一四
印刷製本——中央精版印刷株式会社
©1984 Hiroya Ohta Printed in Japan
ISBN4-7947-0121-7 C0393 ¥1400E
乱丁・落丁の本は小社でお取り替えいたします

太田博也半世紀名作選 1

黒い野原の赤い幻

叢文社

編集委員

天羽大平
（日本女子大学教授）

安藤元雄
（明治大学教授）

佐々木明
（朝日新聞社）

真杉　明
（小学館）

小山武衛士

安本　健

山岸英一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

著者ポートレート＝朝日新聞社撮影

『豆明』

「黒野屋の歌いぶし」　序詩

天地一如の命なれば　仕うる事が仕事なり
金も名前も玉楼も　一切われに用は無し
電子励起の場に在らば　光りの粒子も波動にて
憂苦のかげり　地には無し
わが高ろ　わざの一切も　無益のなげき　もつ人の
いづれ悟らむ　救いなり　大宇宙の

太田博也半世紀名作選 1

黒い野原の赤い幻

目次

〝澄明〟「黒い野原の赤い幻」序詩 ―― 5
黒い野原の赤い幻 ―― 11-59
世へあたえ切るいのち ―― 45-59

手まり模様の雛菊の袂――61-74
土の窪みのイベリア海――75-88
一人遅れて咲きにけり――89-143
散れよ幽かに水引の花――145-160
お時計屋ポーチュ――161-195
皆殺し少女の歌――197-235

黒い野原の赤い幻——太田博也半世紀名作選 1

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

黒い野原の赤い幻（まぼろし）

——いけにえの Hirasawa Sadamichi

こころの気高さで

A

こころのけだかさで
　生きてゆくひと
会ったどのひとをも
けだかくしてゆくひと

B

じぶんのおろかさで
　生きてゆくひと
会ったどのひとをも
あんしんさせてゆくひと

C

しぜんのなごやかさで
　ふんわりしてゆくひと
会ったどのひとをも
なごやかにしてゆくひと

D

形でなんか祈らないで
　祈りをいつも秘めているひと
会ったどのひとにも
　いのりをもたしてゆくひと

E

うつりゆくものに
　なみだながしてゆくひと
会ったどのひとをも
うつりゆかしてゆくひと

F

いのちのぎりぎりを
　つくし切ってゆくひと
会ったどのひとをも
燃やしめ起たしめるひと！

――「わが行願」Hiroya Ota

1

この地上、いっさいのもののために、自己のいのちを犠牲にする――生き身の自分を世のために献げつくすという人が、この世には、少なくとも一人は必要です。

この地上、いっさいの人を仕合せにしてゆくための身代りとなる――つまり、その一人の人は「生犠」といい、また「人柱」ともいいます。

この世界を平和に――そこに住む人たちを楽しく、おだやかに過させてゆくためには、「ほんとうの事」は、なにも知らずにおく必要がある。

もし、かくされている真実を世に知らせたら、世の国々の間に戦いが起って、この地上すべての生き物も植物も死に絶えてしまう――そういう危険がある。

ですから、そういう危険な「真実」を知っている僅かな人たち――つまり国際政治の責任者たちは、その「危険な真実」は伏せておく。伏せて、いっぱんの人たちを、平和な「つんぼ桟敷」で、おいしい八女茶を啜らせておく。又は、シャンデリアも美しい優雅なサロンで、おいしいキリマンジャロのコーヒーを飲ませておく。つまり、これを「つんぼ客間」と申します。

知らないでいた方がいい事は、知らずにいた方が、いっぱんの人たちには良いのです。もし、その「知らずにいた方がよい事」を知ってしまったら、

「ああ、そうだったのか？　自分のこの束の間の仕合せのかげには、そういう恐ろしい事件があった

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c